

科目名	臨床工学演習Ⅱ ②			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	30 回	時間数	60 時間 2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	3年 通年
【授業の目的・ねらい】 人体を臓器毎ではなく有機体として捉え、個々の専門分野で学んだ知識と関連付けることで、人体と病態・臨床工学をより深く理解する。							
【実務者経験】 臨床工学技士として姫路聖マリア病院にて、医療機器管理業務をはじめ、手術室業務・血液浄化業務・救急医療などに従事経験。 臨床工学技士として明石医療センター、北播磨総合医療センターで成人の人工心肺業務や呼吸・集中治療室業務に従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 人体と病態・臨床工学をより深く理解し臨床現場で活かせる知識・技術を身につける事を目的とし、実習及び座学形式にて理解を深めていく。また、クラス内で逐次、お互いの知識・技術を共有していく事でさらに理解を深めていく。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・人体と病態・臨床工学をより深く関連付けれるようになる。 ・国家試験過去問において苦手な分野を把握し、その箇所について自分の言葉で説明できるようになる。 ・生体機能代行装置学（呼吸、循環、代謝）における臨床的な知識と技術を身につける。							
回数	講義内容						準備物(教材)
16	国家試験過去問演習 ④の解説およびまとめ						
17	総復習①						
18	生体機能代行装置学（代謝）演習①						
19	生体機能代行装置学（代謝）演習②						
20	生体機能代行装置学（代謝）演習③						
21	生体機能代行装置学（代謝）演習④						
22	生体機能代行装置学（呼吸）演習①						
23	生体機能代行装置学（呼吸）演習②						
24	生体機能代行装置学（呼吸）演習③						
25	生体機能代行装置学（呼吸）演習④						
26	生体機能代行装置学（循環）演習①						
27	生体機能代行装置学（循環）演習②						
28	生体機能代行装置学（循環）演習③						
29	生体機能代行装置学（循環）演習④						
30	総復習②						OSCE振り返り、臨床実習にむけて
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章、金原出版株式会社							
【準備学習・時間外学習】 ・国家試験過去問に臨むにあたり、現在までの学びを総合的に復習しておくこと ・国家試験過去問で間違った箇所に関しては、教科書・教材・参考書をもとに復習し自らの言葉で説明できるようにしておく							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 客観的臨床能力試験を50点、定期試験を50点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する							